

# 「はしか」に、ならない・させない

「はしか」・風しん混合ワクチンで2回目の接種を受けましょう

はしか(麻疹)は小さい頃に受けた予防接種1回だけでは防げないことがあることをご存じですか。今回は、2回目の予防接種の重要性を紹介します。

【問い合わせ】

市健康増進課 ☎0994-41-2110



協力医療機関での麻疹・風しん混合ワクチン接種の様子

「はしか」とは?

はしかの正式な病名は「麻疹」と言い、ウイルスが原因となって発病する感染症のひとつです。

麻疹は、麻疹ウイルスを含むせきなどのしぶきを受けたり、空中を浮遊するウイルスの吸入を受けて感染しますが、感染力が非常に高く、感染者と同じ部屋にいただけでうつると言われています。

高熱や発しん、強いせきなどの症状が特徴ですが、肺炎や脳炎を併発するなど、重症化する危険性も高く、今でも後遺症が残る人や死亡する人がいるなど甘く見てはいけな病気で

## 「麻疹」の予防接種

日本では昭和53年に麻疹ワクチンの定期接種が開始され、就学前にワクチン接種を受ける子どもが増えましたが、全員が接種を受けているわけではありません。

また、1回の予防接種では麻疹ウイルスに対応する免疫が育たない場合や、

年数が経過することで免疫がしだいに弱まることから、1回接種したからといって決して安心はできません。

日本でも、何度か「麻疹」が大流行しています。

最近では、平成13年に20〜30万人の患者が発生し、平成19年にも首都圏を中心に爆発的に流行しました。このとき患者の多くを占めたのが15歳から29歳の若者層でした。若い人は行動が活発なこともあり、「麻疹」が爆発的に広まったものと考えられます。

「麻疹」が大流行すると学校閉鎖を余儀なくされたり、免疫を十分にもっていない人や妊婦さんなどは、人が多く集まる場所への外出を控えなければならなくなるなど、社会生活にも大きな影響が出てしまいます。

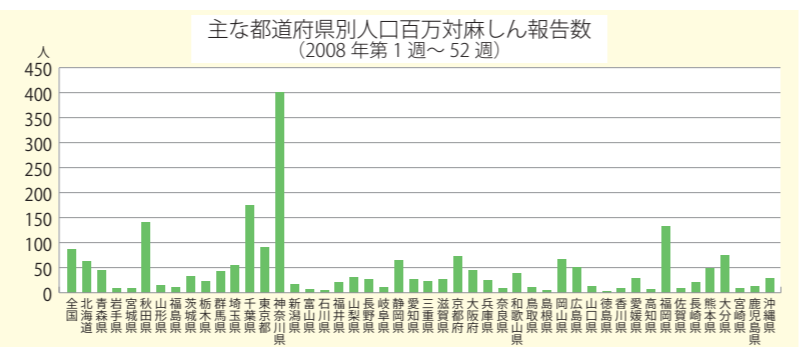
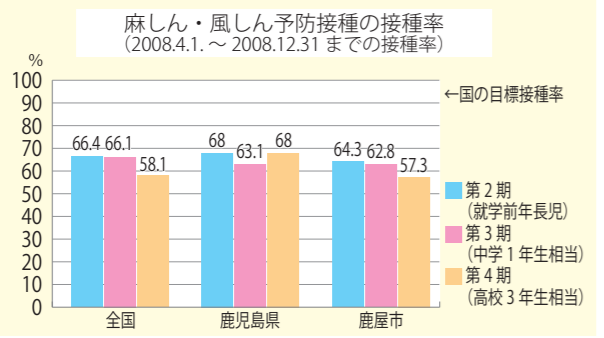
最近では、世界のほとんどの地域で、麻疹ワクチンの2回接種が主流となっていて、ワクチン接種が1回なのは日本などの1割程度の国でした。日本でも平成18年度から

2回のワクチン接種が始まりましたが、接種率はまだ十分ではなく、対象者の5人に1人が受けていない状況です。

日本がはしかの輸出国と指摘されることのないように、確かな「麻疹対策」が求められているのです。

## 「麻疹」の予防対策

ここ数年の若者層を中心とした「麻疹」の流行を受けて、国では、「麻疹」をゼロに近づけるため「麻疹」に関する予防指針を制定しましたが、その柱



となったのが青少年を対象とした予防接種やすべての麻疹患者の把握の実施です。

例えば予防接種については、平成20年度から5年間、毎年13歳と18歳になる年度の1年間を対象に、「麻疹」の予防接種を行います。この時に、「麻疹」と並んで「風しん」への対策も加え、「麻疹・風しん混合ワクチン」を使うこと

を薦めています。

これによってこの年齢層の「麻疹・風しん」に対する免疫力を高め、大流行を防ぐとともに日本国内での「麻疹・風しん」の発生をゼロに近づけようというものです。

また、これまで一部の医療機関からの報告に限られていた「麻疹・風しん患者」の発生の様子を、全ての患者発生を把握する報告の方式に改めて、「麻疹」と「風しん」の発生の様子を正確に把握できるようにしました。

「麻疹」は、いったんかかってしまうと症状をおさえるための対処療法しか治療法がないため、予防対策が大切になります。

ぜひ、「麻疹・風しん混合ワクチン」で2回目の接種を受けましょう。



## ◆平成21年度の定期予防接種の対象者

- ①平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれの人 (中学1年生に相当する年齢の人)
- ②平成3年4月2日～平成4年4月1日生まれの人 (高校3年生に相当する年齢の人)

## ◆接種方法

接種の際は、お手持ちの予診票と母子健康手帳を医療機関へご持参ください。ただし、保護者が同伴をしない場合は、市保健相談センターで新たに予診票の交付を受けてください。

## ◆接種期間

平成22年3月31日まで ※接種は「6月までが望ましい」となっています。

## ◆接種費用 = 無料

### ■注意事項

- ①妊娠している人は、接種できません。また、接種後2か月間は妊娠を避ける必要があります。
- ②定期予防接種は、市内の実施医療機関 (案内済み) で接種してください。市外で、接種を希望する場合はお問い合わせください。
- ③予診票を紛失した人は、母子健康手帳を持って市保健相談センターにおいでください。

【問い合わせ】市健康増進課 ☎0994-41-2110